

○養鶏方案

東春日井郡池林村の海部莊平氏は長年養鶏業に従事し、種々の困難に遭遇する度に、防御の方法を研究して非常に実践に富む。それらの研究結果を「養鶏方案」として、第3回内国勸業博覧会で発表したところ有功3等賞を受賞すると共に多くの見学者からも称賛を受けた。そこでここに「養鶏方案」を掲載して同業者の参考にする。

緒言

私は浅学短識で経験に乏しいが明治8年から養鶏業に従事し、数々の失敗や大変な苦勞を経験したが、百折不撓、千挫不屈の気持ちで、養鶏業の改良進歩に繋がるようにあれこれ考え実践した。幸いにもよい結果を得たので、養鶏に関して実践上大切なことを記述し、同業者の参考になることを願うものである。

どのような商売もこれを繁盛させようと思えば、予めその仕事の性質から経営方針を定め、かつ改良すべき点と商売を始める順序を確実に知っておくべきである。もし、これらのことを知らずに商売を始めれば予想外の損失を招くことがある。特に養鶏業においてはそうである。私が世間を見渡したところ、養鶏業を始めたが、意外な損失を被り、遂には家業まで傾いて廃業に追い込まれた者を数多く見ている。これらは結局のところ養鶏の性質を知らないで創業したためである。従って、創業しようとする者は当然このことに注意して、堅忍不拔の志を持ち、ある日失敗してもよく忍んでその原因を探求し、さらに頑張るその真理を極め、その奥義を探り、本心を貫けば良い結果を得て、若干の利益を得ることは明らかである。一般的に養鶏業は農村に限らず都会においても適する産業であるので、我が国にとって貴重な産業である。それ故にこの産業の益々の振興発展を図ることは現在の急務である。

私は未熟で非才であるが、今回この「方案」を出品したのは、長年の経験に照らし合わせて実に多くの実利実益があったので、都会の有能な皆様がこれを参考にしてもらえれば本業が一層振興すると考えるからである。

鶏舎及び飼養場

養鶏業で利益を得るためには第一に適切な構造を有する鶏舎を建設し、鶏に快適な環境を与えて健康を保持することが大切である。従って鶏舎を建設するには、冬期に空気の流れが良く温暖な場所を

選ぶべきである。鶏舎は南側を向けて建てること。その大きさは様々であるが、最適なものは横 3.6m、縦 18～27m、3.6m 四方毎に 2 区に分け、1 区を^{ねぐら}埒に、もう 1 区を内庭にする。内庭は雨天時に鶏が外で遊べるようにするために設置する。^{ねぐら}埒の中には地面から 90cm の高さに柵を取り付け、鶏が夜間にここに止まるようにする。柵の横に産卵器（箱又は籠）を設置する。各部屋に柵を設けて鶏の運動場とする。運動場内に穴を掘り、木炭又は石灰を砂に混合する。その上には覆いを設置して雨、雪で濡れないようにしておく。鶏はそこで砂浴びを行う。運動場の外には樹木を植えて生垣とし、冬期の寒風を防ぐ。運動場内には数カ所に樹木を植えて夏期の日光を防ぐ。この樹木は落葉樹を選び、冬期には葉が落ちて日光がよく当たり、運動場を乾燥させることができる。

孵卵と育雛

孵卵は養鶏家にとって非常に大事な業務であるので、その時期を失わないようにしなければならない。その時期は各地方の気候に依るので一概には言えないが、少なくとも私の地方では、春秋の 2 期が良い季節である。

種卵を得るには最も優秀な雌鶏を選び、雄鶏との混合割合に注意すべきである（雌鶏 10 羽に雄鶏 1 羽の割合）。

種卵を孵化させるには、着巢したがっている雌鶏に試しに 2～3 個の卵を与え、2 日経ってもまだ着巢する意欲が認められる場合に初めて、精選した種卵を与え、孵化を待つ。

巢は直径 36～39cm、高さ 24cm 位の籠又は箱を作り、中に切り藁又は^{もみ}籾粉を入れその上に^{わしろ}筵を敷く。雌鶏の体の大小に応じて適当数の卵を抱かせる。餌と水を用意して雌鶏が勝手に外出しないようにすべきである。若しも雌鶏が長時間巢を離れると卵が冷めて遂には孵化力を失うことになる。1 羽の雌鶏に抱かせる卵の数は雌鶏の体の大きさによるが、だいたい 10～12、3 個までである。余りに多くの卵を与えることはよくない。何故ならば、孵化しない卵が多くなったり、一旦孵化しても体が弱く成長がおぼつかない雛となるからである。

次に孵化力を有する卵と孵化力を有しない卵を見分ける方法を述べる。着巢後 5～6 日目の卵を取り出し、暗黒に近い部屋で、目と灯りの間に卵を置く。孵化力のある卵は頂上に近い一部分を除きそれ以外は全て暗黒である。孵化力の無い卵は透明であたかも新鮮な

卵の様に見える。この方法は簡単であるので必ず行うべきである。これを行った時に孵化力の無い卵が多数あった場合は同じ日に抱卵を開始した卵を集め、1羽の雌鶏に適切な数の卵にする。一方、抱く卵が無くなった雌鶏には新たな種卵を抱かせる。もしも前述したことを行わずに数の少ない卵を抱卵させ続ければ、これらの卵は雌鶏から多量の熱を得ることができその結果、強壯な雛が誕生する。

孵化の期間は大体21日であり、この時になれば卵殻を破って雛が巢の中に現れる。これ以後は注意深く育雛に努めなければならない。全ての雛が誕生してから20時間以内は雛の食欲が出ないので決して餌を与えてはならない。食べ始めの時は小粒に砕いた米ときれいな水を与える。母鶏が外出しないように注意すべきである。3日目にドジョウの丸焼きを粉末にしたものと青菜を2時間毎に与える。特に粉米は常食であるので毎日欠かさず与えること。20日を過ぎたら小麦糠^{ぬか}と米糠を魚屑の煮沸汁で練り合わせて少量ずつ与える。日数が進むにつれ順次分量を増やしていく。粉米に対するドジョウの割合は少なくしていき、120日で母鶏と全く同じ餌にすること。

孵化から数日間、母鶏は雛を自分の翼下に入れて保護する。この時期に最も注意することは羽虱^{はじらみ}である。羽虱が母鶏に寄生していると雛に伝染する。万が一、羽虱の被害にあつて、これを撲滅せずそのままにしておくと、鶏は死に至る。従って事前に鶏をよく観察して羽虱の被害に遭わないように努めなければならない。また、環境を不潔にしたままであると病気が猛烈に発生し、撲滅することが容易でなくなるので、餌や飲水を始め飼育環境の清潔保持に努めるべきである。

食物

そもそも鶏にとって餌は大変重要である。諸病に罹患するのも餌による。健康を保つのも餌による。産卵を良くするのも餌による。従って餌には十分注意を払わなければならない。

農作物は年により豊凶があり価格が一定でないので、毎年同じ餌を与えることは難しいが、現在よく与えられている餌は、魚肉の屑をよく煮た肉汁に米糠、麦糠、小麦糠と細末した青菜などを混ぜてよく練り合わせたものである。これを朝と昼の2回与える。夕方1回は米糝^{※1}を与える。また、牡蠣^{かき}と清水は餌と同様に健康上必要なものである。毎日欠かさず与えること。そのためにはこれらを十分に備蓄すること。また、青菜は必要なものである。時々鶏舎

内に投げ入れて鶏が自由に啄^{つば}めるようにすること。

給餌は毎日一定の時間に与えること。勝手気ままに給餌してはいけない。もしも気ままに貪食^{どんしょく}すれば、消化力が悪くなり遂には産卵に影響を及ぼすと共に健康をも害することになる。従ってできるだけ鶏達の消化能力を考えて給餌すべきである。私たちが実践によって得た鶏 1,000羽当たりの1日給餌量を次に記す。

米糠 74kg、小麦糠 16.7kg、青菜 37kg
大麦糠 14.8kg、魚屑 37kg、糞 51.8kg

注意

養鶏において注意を怠ると大きな損害を被ることになる。世間の当業者を通観すると注意が行き届かなかったために大きな損害を受けた者は少なくない。これは結局のところ使用回数の誤り、餌、飼育環境への注意が足らなかったことに由るものである。

疾病の多くは餌の内容と餌の不潔さから生じる。最も恐ろしい疾病はコレラである。従ってよく注意を払い、この疾病の被害に遭わないようにすべきである。万が一、不幸にもこの疾病の兆候が現れた時は、労を惜しまず病鶏を隔離して、疾病の蔓延を防ぎ、防疫に努めなければならない。また、鶏舎が不潔であるとある種の蜘蛛虫が発生しやすくなる。これの発生を未然に防ぐべきである。もしもこの虫に感染した時は鶏が苦しむだけでなく、人体にも大いに害がある。この虫は大変微細で、撲滅が難しいので注意を怠ることがないようにすべきである。従って、鶏舎や器具等に至るまで毎日清潔を保ち、なおかつ獣類の害を防ぐために番犬を飼うべきである。前述した注意に加えて、栄養のある餌と十分量のきれいな水を与え、飼育を怠らなければ利益が多く出て、失敗することはない。もしも注意を怠り、種々の不幸に遭遇しても挫ける事無く失敗の原因を探求し、それを将来に生かし、必ず成功する気持ちを持ち続けるべきである。

疾病

鶏の疾病に関しては種々の薬剤や治療法、保護法があるが、もしも普通の家禽が疾病に罹れば、その疾病の種類に関係なく直ぐにと殺すべきである。なぜなら、病鶏を治療するためには医薬品を用いると共に食事にも注意を払い数日間保護する必要がある。そのためには多くの費用を要すると共に仮に疾病から回復したとしても一旦疾病に罹った個体は虚弱になり、元に戻らない。また、感染しやすくなって極めて飼養が難しいものになる。従って、これらのことに

労を費やすよりも、新たに雛を育てて数を補う方がよい。しかし、悪性の伝染病の蔓延など止むを得ない場合や疾病に罹った鶏が良い鶏の場合は前述したように直ちにと殺するのではなく医薬を用いて必ず治療すべきである。

病鶏は速やかに隔離し、他の鶏と同居すべきでない。これは疾病の伝染を防ぐためである。なお、治療は飼養者が行うべきである。他人に依頼するなどということは便利でない上に利益を損ねることがあることに注意すべきである。

鶏の疾病の種類は多くあるが、これらを治す薬剤も少なくはない。まさしく病鶏は薬剤に頼るものであるから、飼養者は疾病の鑑定と薬剤についても学んでおけば便利である。従ってこれらのことを研究することも必要であるので、次に幾つかの治療法を記述する。これらの治療法は家禽書に記載されていたものを私が実践してその効能が著しいことを証明したものである。友人の鶏が疾病に罹り私がそれを見に行く機会があった。その飼養は粗末で、病鶏や死亡鶏が存在して実にひどい状況であった。これはコレラ病であった。そのため、治療法を示して直ぐに実行したところ、その効果があり、遂にはこの疾病を防ぐことができた。その他ロープ病、痘瘡^{とうそう}においても実践してみるとその効果が著明であることが疑いなかった。

おしなべて、コレラ病に罹った時は普通の食べ物を暖かくして与えること。なぜなら、体温が維持できて消化力を活発にすることができるからである。また、木炭を与えることはこの疾病を防ぐだけではなく、酸敗液を鎮静させる効果もある。病勢がさらに進んだ時には、^{※2}蒼慮末^{さいりよまつ} 450g と硫酸カリウム 225g、硫黄末 225g を混和し乾燥させたものを平素から用意をしておく。使用する時にはこれを砕いた玉蜀黍^{とうもろこし}と共に、お湯か温めた乳汁の中に入れて良く溶解する。その後1羽当たり大きじ1杯を与える。若しも病勢が猛烈な時は投与量を増すと共に石灰酸3～5滴を加えて与えると効果がある。

^{※3}ロープ病

この疾病の徴候はカタルと大きな違いはない。症状は目の内隅が泡状もので満たされ、眼瞼は腫脹する。病勢が強い時は瞳孔が覆われて明りを失う。これを治療するには、豚の脂肪大きじ1杯と硫黄小さじ1杯に石炭酸5滴を加えて混合したものを少量与える。もしも15時間を経過しても治らない場合はさらに数回同様の投薬を行う。与える1回量を増やすこともできる。

痘瘡

この疾病は季節が不順で特に冷気を帯びた季節に発症することが多い。その症状は頭部や顔面に小さな腫物がたくさん生じることである。この腫物は中に膿汁を有して伝染性の性質がある。これを治療するには塩酸カリウムの強い溶解液を用いる。さらに木灰と硫黄を柔らかい食べ物に混ぜて与える。

下痢及赤痢

この疾病の原因は野菜や柔らかい食べ物を与え過ぎた時に発症するので、その治療法はこれらの給与量を少なくすると共に飲水も少なくする。さらに多量の木炭を食べ物に混ぜて与える。症状が激しい時は少量の^{※4}白聖も与える。

寄生虫

家禽には寄生虫が大変多く、雛の発育や産卵に害を及ぼし、恐ろしい疾病の原因ともなる。従って雛の頭部に^{しらみ}虱が発生した時は少量の石炭油を塗抹すべきである。それでもなお滅亡しない時は分量を増して再び石炭油を塗抹すること。また、^{※5}蜘蛛虫は虱より悪質で、孵卵中の母鶏の体温で発生して順次舎内の各所に蔓延して、絶滅させることが容易でなくなる。この駆除法を記述する。まず母鶏を外に出し、産卵箱から^{むしろ}筵を取り出し、これを焼くこと。そして、窓と戸を密閉して舎内で硫黄 1,350g ほどを燻す。2時間後に窓と戸を開けて空気を入れて舎内及び産卵箱に至るまで清潔に清掃する。その後、温めた石炭水で^{ねぐら}埒の各所を洗浄し、石炭油を各所に塗抹する。そして、新しい筵を敷いて鶏を住まわせる。

鶏糞器械

鶏糞の取り扱い方法は種々あるが、現在行われているのは土干しと棚干しの2つの方法である。平地に筵を敷いて、その上で鶏糞を乾かすことを俗に土干しと言う。また、60～90cmの高さに棚を設けてその上で鶏糞を乾かすことを棚干しと言う。この二つの方法は共に不完全な方法である。それは朝夕の出し入れに人手を要すること。また、昼間に急な雨が降った場合の対応は極めて困難であること。少数の鶏を飼育している場合であれば特に差し障りがあるもの

ではないが、多数羽を飼育する場合は大いに不便を感じる。私たちは会合でこのことを憂い、日夜熟考して棚干し機械を発明した。それは、幅 180cm、長さ 25～32m の棚を 4 段にして、それぞれに車を付けて左右に引き出せるようにした。さらに雨や雪の対策として藁か檜わら ひのきの皮で覆いを作った。これにより急な雨がきた場合でもこの棚を引き出して収めればよいのである。この機械で鶏糞を扱えば大いに人手を省くことができる。従って、養鶏事業を拡張するには最も必要な機械と言うべきものである。

訳者注釈

- ※ 1 米糶ひ：穀ばかりで実のない米
- ※ 2 蒼慮末わいりよまつ：蒼は草木の意味。
- ※ 3 ロープ病：粘膜型鶏痘
- ※ 4 白聖：？
- ※ 5 蜘蛛虫：ワクモのこと？ワクモは鳥類を吸血する外部寄生虫。